

令和2年度

年 報

令和3年3月

富山県自然博物館ねいの里

目 次

I 施設の概要

1	沿革	2
2	設置目的と役割	2
3	施設の概要	3
4	施設の変遷	5
5	指定管理者制度の導入	6

II 利用状況

1	来館者数	7
2	団体来館者数	7
3	開催行事	7
4	ナチュラリスト活動	8
5	各種普及活動	9
6	実習生の受け入れ	10
7	鳥獣保護センターにおける傷病鳥獣の受け入れ	10
8	自然に関する相談件数	11

III 県からの委託業務

1	野生鳥獣対策業務	11
2	富山県ニホンザル管理計画におけるモニタリング調査業務	12
3	生物多様性保全推進アドバイザー事業	12
4	自然博物館「いこいの村富山移管施設」維持管理整備事業	12
5	富山県指定管理鳥獣捕獲等業務	12

IV 自然塾の会の活動

1	組織	12
2	活動内容	13

V 広報活動

1	ホームページでの情報発信	13
2	テレビ、ラジオ等への協力・出演	13

I. 施設の概要

1 沿革

昭和46年	5月	県民公園構想発表
昭和49年	6月	自然博物館基礎調査
昭和49年	10月	県民公園基本計画策定 県民公園C地区を自然博物館として整備することが決定)
昭和54年	8月	自然博物館基本設計
昭和55年	7月	自然博物館整備工事施工
昭和56年	6月2日	自然博物館 開園
昭和59年	10月	富山県鳥獣保護センター併設
昭和63年	3月	やまびこタワー(バッドハウス)新設
昭和63年	10月	展示館の展示替えオープン
平成元年	10月	キジ野生化訓練場新設
平成4年	2月	入館者50万人達成
平成10年	8月	イヌワシモニタリングシステム(南砺市小瀬)稼働
平成14年	9月	森のビオトープ整備開始
平成15年	6月	水辺のビオトープ事業開始
平成15年	7月	炭焼き窯「吉住窯」完成
平成18年	4月	指定管理者制度導入
平成18年	7月	生き物ふれあい自然塾開校
平成19年	3月	展示館の展示替えオープン(人と生き物との共生をテーマに)
平成21年	4月	いこいの村移管施設(4.2ha)管理受託
平成27年	7月	入館者100万人達成
平成28年	4月	指定管理鳥獣(イノシシ、ニホンジカ)捕獲等事業本格実施

2 設置目的と役割

(1) 目的

人間が自然といかに付き合っていったらよいのかと言う大きな問題に対するアプローチとして「身近な自然の再発見」をテーマに、県民の誰でもが自然に親しみ、学べる場を設け、展示や野外の自然解説を通して、自然への興味、関心を高め、自然を愛し守り育てることを目的としている。

【基本となるテーマと理念】

- ① 自然に親しむ — 自然探勝とレクリエーションの場の提供
- ② 自然に学ぶ — 自然の学習と研究の場の確保
- ③ 自然を守り育てる — 環境の保全(動植物の保護と景観の保育)

(2) 役割

上記のテーマと理念の実現を図るために環境教育を実施する役割を持っている。なお、環境教育の目標は次の5つを考えている。

- ① 自然に興味を持つ人を育てる。(自然への親しみ、自然への興味を養う)
- ② 自然を理解できる人を育てる。(自然の仕組みを学び科学的に見る目を養う)
- ③ 自然を愛する人を育てる。(自然や環境に対する感受性と愛情を養う)
- ④ 自然を守る人を育てる。(自然の中のマナーと環境に対する論理を養う)
- ⑤ 指導者を育てる。(自然解説・環境教育の理念と技術を養う)

この教育目標を達成させるための活動の理念としては、実物を通じた体験・生態的なものの見方・環境の多面的な見方・自然と人間の生活との関連についての見方等である。

さらに、近年来園者が急増している保育園、幼稚園児や、ジュニアナチュラリスト支援のための館の役割として、普段あまり観察することのない身近な小動物の観察や自然の中での遊びを通して、上記の目標を達成できると考えている。

また、近年、希少野生動植物の絶滅の危惧、生物多様性保全の重要性、ツキノワグマやイノシシを始めとする人との軋轢が増加してきている野生動物との関係など、野生生物に関する新たな課題が発生してきている。これらの諸問題に対応するため、県の委託を受け各種調査や対策を実施している。

特に、平成28年度からは指定管理鳥獣（イノシシ、シカ）に関する調査や捕獲、狩猟者の育成などを目的とした、指定管理鳥獣捕獲等事業を受託している。

3 施設の概要

1) 自然博物館センター

- | | |
|-----------|---|
| (1) 建物の構造 | 鉄筋コンクリート造2階建て |
| (2) 建物面積 | 延床面積726.54㎡ |
| (3) 施設内容 | 1階 展示室、レクチャールーム
2階 展示室、事務室、トイレ、研究資料室 |
| (4) 関連施設 | 野外倉庫 プレハブ平屋建て 延床面積9.93㎡
駐車場10台、鳥獣野化訓練場 |

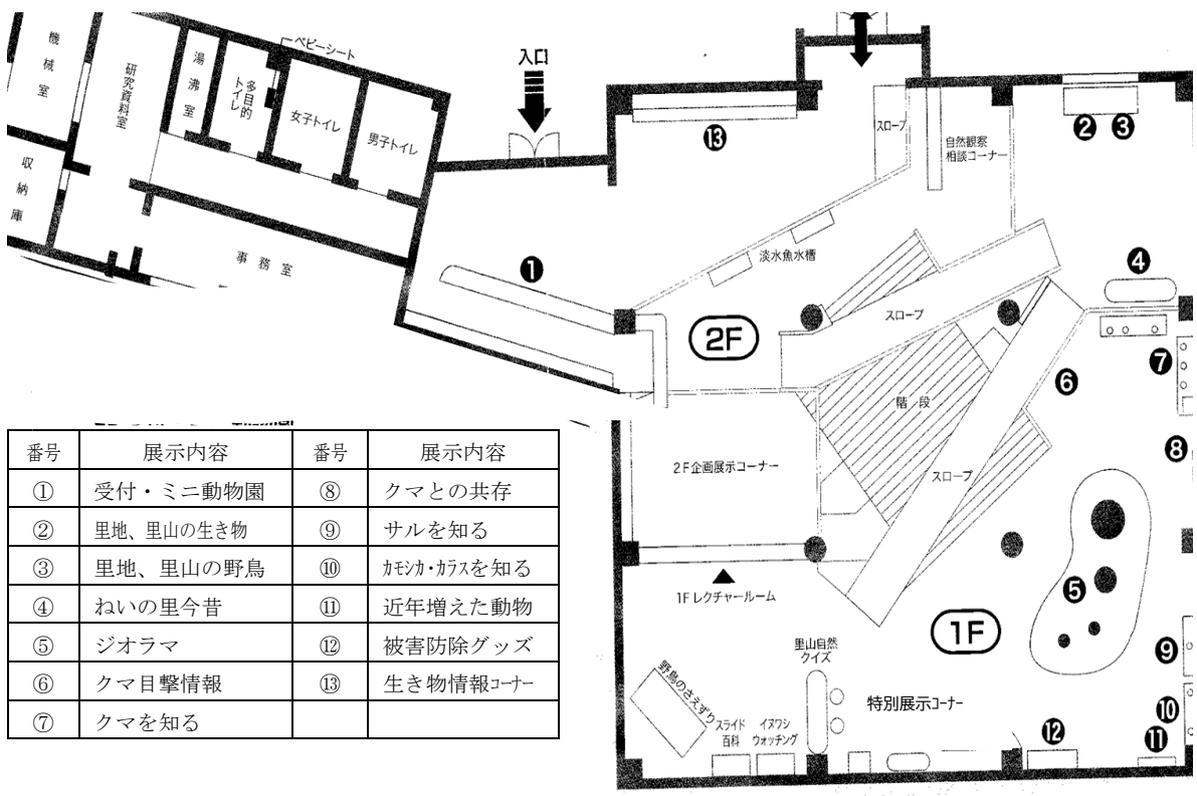
2) 鳥獣保護センター

- | | |
|-----------|------------------------|
| (1) 建物の構造 | 鉄筋コンクリート造 一部鉄筋金網造 1階建て |
| (2) 建物面積 | 112.52㎡ |
| (3) 施設内容 | 救護室、飼育室8室 |
| (4) 関連施設 | 焼却施設 金属造 |

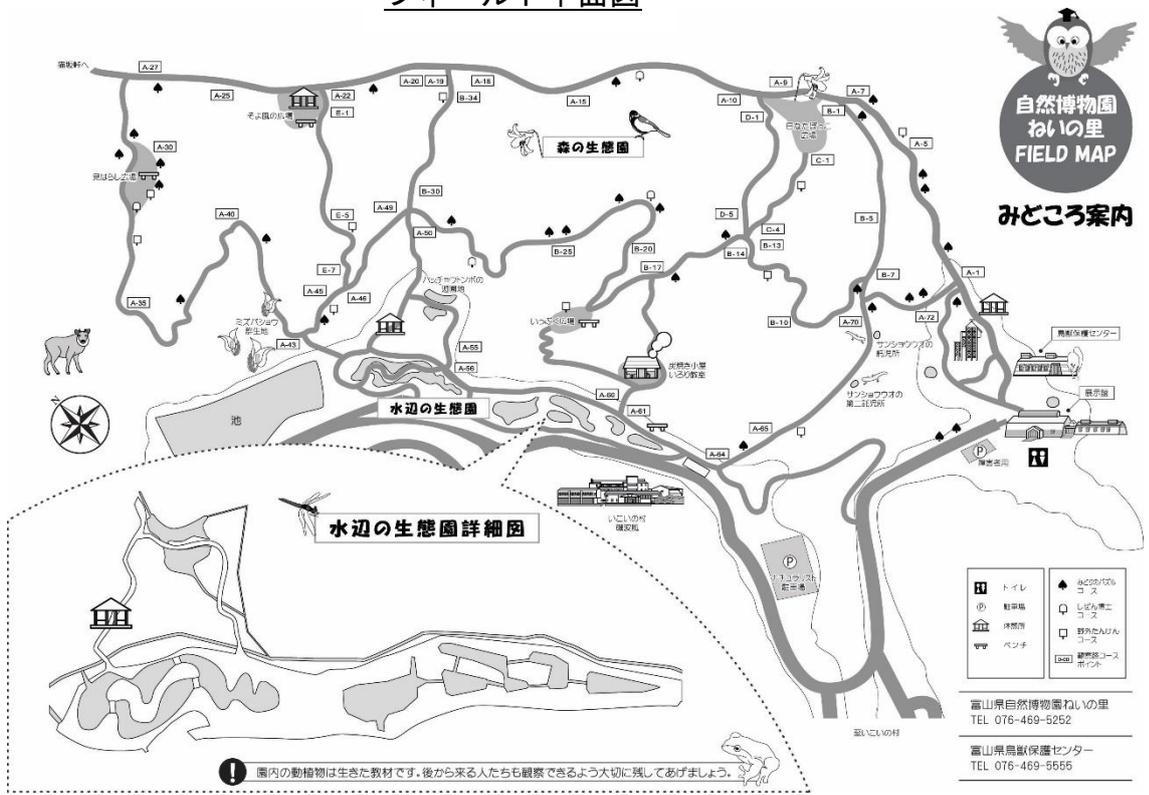
3) フィールド

- | | |
|------------|---|
| (1) 森の生態園 | 約138,000㎡ |
| (2) 水辺の生態園 | 約8,500㎡ |
| (3) 園路 | 1周約2km 自然観察路として整備 |
| (4) 工作物 | バッドハウス 1式 木造
森の生態園休憩舎 2棟 木造
水辺の生態園休憩舎 1棟 木造 |

自然博物館センター（展示館）平面図



フィールド平面図



4 施設の変遷

1) 野外学習施設

(1) 生態園の設置

ホクリクサンショウウオ、モリアオガエル、ハッチョウトンボ、メダカ、テツギョ等の小動物を保護し野外観察の拠点とした生態園（森の生態園）の整備を昭和 61 年 4 月から実施し、昭和 63 年度に標識を立て野外活動に利用している。また、昭和 63 年度には捨土場所を植物遷移の観察用生態園として設定している。（現在は「かたかごの丘」として整備）

また、平成 15 年度からいこいの村富山の水生庭苑整備を受託し、水辺の生態園として希少動植物の保全を図るため、整備・管理を行っている。（平成 22 年度からは県有地となったため、県から受託）

一方、炭焼き窯の跡が発見されたことから、かつての里山の暮らしを再現するために平成 15 年に炭焼き窯の復元を行い、「吉住窯」と名付け、これまで 21 回の炭焼きを行った。

しかしながら、窯の老朽化により大規模な補修が余儀なくされるようになったことから、一昨年より簡易的に炭焼きができる、ドラム缶炭焼き窯を購入し、行事等の際に体験型炭焼きや、炭を使ったイベントなどを行っている。

(2) 野外学習コース

開園時に設定した、しぜん博士コース・野外探検コース・緑のパズルコース等の野外学習コースを平成元年度から平成 3 年度にかけて更新した。なお、更新に当たっては、問題および設置場所の一部を変更した。

また、平成 24 年度には、しぜん博士コースと野外探検コースを統合し、新たに「しぜん探検コース」を設置した。

昨年度からは新たに、クイズ形式のオリエンテーリングである「ねいの里の宝探し」を設置し、フィールドの魅力アップに努めている。

(3) 遊具広場の設置

利用者層の変化に対応し、園地周辺の森の中で家族連れが楽しめるよう、手作り遊具のある広場を 2 か所、林内を木道で散策できる細道を 1 か所設置している。

○ ハンモック広場（平成 26 年度設置）

ハンモック、ブランコ、クライミングネット、砂場など

○ 木馬の広場（平成 27 年度設置）

木馬、シーソー、ブランコ、滑り台、ロープ渡り等

○ 森の細道（平成 29 年度設置）

木道設置によるバランス遊具

2) 第 1 回展示館の展示更新（昭和 63 年 10 月展示替え）

(1) 展示の主な特徴

イ. 実物を通し体験できる展示及び機器の導入。

ロ. 季節的に入れ替えができる展示。

ハ. 展示の対象地域を「ねいの里」フィールドから県内一円に拡大する。

(2) 展示替えにより新設した内容

全方位観察ボックス・立体投影器・私たちの仲間・フィールド玉手箱・海辺の鳥たち・サンショウウオの水槽・2万年前の「ねいの里」(石器)・カモシカの剥製・富山の四季の生き物・クローズアップ

3) 第2回展示館の展示更新(平成19年3月展示替え)

「人と自然との共生」を目指し、クマやサルなど、人との間で軋轢のある動物などはく製や生態についてのパネル展示、被害防除法などを新設した。

また、里山やそこに生息する生き物の紹介、渡り鳥の生態、昆虫標本や鳥のはく製などを一部更新した。

4) キジ野化訓練場の整備 (平成元年10月完成)

最近、堤防の草刈がさかんになったことや麦畑が増えたことから、キジの卵が多く持ち込まれ、沢山の雛がかえり鳥獣保護センターの野化訓練室では収容しきれなくなったので野化訓練場を新設した。この野化訓練場は、雑木林を生かし自然に近い環境になっている。

また、キジのみならず、タヌキなどの哺乳類の野化訓練にも使用できるよう改良してきている。

5) その他施設の更新(随時)

施設の老朽化や利用者ニーズの変化に伴う施設の更新を随時実施している。

主な更新施設は次のとおり。

- ・男女トイレの洋式化
- ・クイズコーナーの新設
- ・レクチャールームの冷暖房化
- ・大型モニターやスクリーンを使用した動植物やねいの里の活動の紹介
- ・「野鳥の鳴き声」コーナーを大型モニターを利用したシステムに改修
- ・1階フロアのカーペットの取り換え

5 指定管理者制度の導入

平成15年6月に地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)が成立し、「指定管理者制度」が創設された。

この制度は、多様化する住民ニーズに効果的、効率的に対応するために公の施設の管理に民間事業者等のノウハウ等を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の節減等を図ることを目的としている。

この制度により、これまで出資法人等に限られていた公の施設の管理を株式会社等の民間事業者やNPO団体等も行うことができるようになった。

富山県では、原則として公募により期間を区切って指定管理者を選定することとし、自

然博物館ねいの里も指定管理者制度の対象施設となり、これまで4回の公募がなされた。

いずれも民間事業者等の応募はなく、建設当初の受託管理制度の時代からこれまで、当財団が一貫してこの施設の管理を行ってきた。

これまでの指定管理期間は次のとおり。

回	期 間	指定管理者
第1回	2006年4月1日～2009年3月31日	財団法人 富山県民福祉公園
第2回	2009年4月1日～2013年3月31日	財団法人 富山県民福祉公園
第3回	2013年4月1日～2018年3月31日	公益財団法人富山県民福祉公園
第4回	2018年4月1日～2023年3月31日	公益財団法人富山県民福祉公園

II 利用状況

1 来館者数

(1) 令和2年度来館者数

月 内 訳	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
大人	417	608	1,128	941	812	1,214	1,561	802	219	257	307	621	8,887
子供	209	389	790	549	1,028	1,040	1,118	763	180	150	241	324	6,781
計	626	997	1,918	1,490	1,840	2,254	2,679	1,565	399	407	548	945	15,668

(2) 開館以来の来館者数

S56	S57	S28	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3
28,608	47,356	37,633	46,653	58,585	60,825	55,174	43,211	43,944	35,586	43,450
H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
42,298	35,524	27,602	26,770	25,873	27,598	23,581	21,260	21,523	20,007	18,449
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
17,891	18,212	18,939	18,162	17,383	18,173	14,174	14,720	14,947	14,178	16,605
H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2				合計
17,801	18,994	20,583	18,484	19,374	18,859	15,668				1,104,657

2 団体に来館者数

団 体 内 訳	件数	人数
学校など（教育活動）	6	283
幼稚園、保育園	11	432
一般団体	40	622
子育て支援グループ等	115	1,977
合 計	172	3,314

3 開催行事

月 日	行 事 名	参加者(人)
4月1日～6月29日	日本鳥類保護連盟富山県支部「愛鳥写真展」	3,369
4月19日	ネイチャービンゴで里山散歩	0
5月6日	ちびっ子自然体験	0
5月10日	愛鳥週間・探鳥の日「パートウォッチング」	0
6月20日	ヘイケボタル観賞	143
6月27日	ヘイケボタル観賞	244
7月1日～8月2日	富山県自然保護協会環境写真展	1,663
7月5日	野生動物と生きる	40
7月26日	雑木林探検 PART 1	49
7月15日～8月23日	県内のカブト・クワガタ展	2,590
8月5日～9月13日	キッズにこにこ写真展	1,522
8月12日～8月26日	環境月間ポスター展	2,254
8月10日	トンボ調査と標本作り	31
8月22日	水辺の生き物観察と外来生物への接し方	35
8月24日～9月30日	秋の虫展	2,469
9月2日～9月30日	愛鳥ポスター展	2,254
9月19日	チョウの鱗粉転写と秋の鳴く虫観察	25
10月2日～11月1日	ねいの里キノコ写真展	2,782
10月4日	キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ	112
11月3日	雑木林探検 PART 2	40
11月3日～12月27日	ロードキル写真展	1,842
11月29日	クリスマスリースとカード作り	50
12月14日～1月18日	春の七草実物展	578
1月4日～6日	「春の七草」頒布会と正月遊び	169
2月11日	動物の体を調べジビエ料理を楽しむ	37
3月20日	ねいの里の春見つけと化粧炭工作入門	22
通年	外来生物展 PART II	15,668
	企画展「野生動物と生きる」	15,668
	企画展「富山のカエル展」	15,668
	企画展「釣り糸、釣り針を捨てないで」	15,668

4 ナチュラリスト活動

昭和56年のねいの里開園以来、県のナチュラリスト活動の主要拠点として、シーズン中の土日祝日にナチュラリストの配置を行っている。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令のため、休館期間（があったため、7月4日（土）から11月3日（祝）まで、各1名のナチュラリストを配置し、展示館とフィールドで自然解説や展示解説活動を行った。

特に、今年度も利用者をフィールドに連れ出すための仕掛けとして、「ねいの里の宝探し」の活用を進めた。

5 各種普及活動

(1) 園内での普及活動

- ① 富山県自然保護協会が主催する「ナチュラリスト・ジュニアナチュラリスト連携事業」に協力し、園内で研修会を実施した。
- ② 企画展「野生動物と生きる」を開催し、近年、特に農作物や人身に対しての被害が顕著になってきているイノシシやニホンザル、ツキノワグマなどの野生動物の生態や被害の実態について、パネルで紹介した。
- ③ 企画展「釣り糸、釣り針を捨てないで」を開催し、釣人のマナー向上を呼び掛けた。

(2) 園外での普及活動

県民への自然博物館ねいの里のPRや野生動物への理解を深めるため、次のような活動を行った。

- ① 野生動物による人身や農作物被害を防ぐための講習会の開催
- ② 地域の野生生物保護活動などに対する講師派遣
- ③ 県内各地のイベントで、ブースを設置しての普及、PR活動
- ④ 保育所の園児に対する出前講座による生き物紹介

期日	派遣先	派遣者	派遣内容
7月2日	未来講座HIMI学出前	赤座	講師
7月2日	滑川市東加積小学校	富永・竹内	ビオトープ講師
7月5日	ナチュラリスト養成講座	富永・間宮	講師
7月9日	富山市榆原中学校	赤座	講師
7月10日	射水市金山小学校	竹内	出前講座
7月12日	富山市宮川地区公民館文化講演会	赤座	講師
7月22日	富山市速星幼稚園	富永・松崎	出前講座
7月28日	富山市イノシシ研修会	間宮	講師
7月29日	富山市うさか保育園		出前講座
8月2日	ナチュラリスト養成講座	赤座	講師
8月3日	富山市うさか保育園	富永・松崎	出前講座
8月5日	富山市うさか保育園	竹内・砂田	出前講座
8月7日	南砺市鳥獣侵入防止研修会	間宮	講師
8月17日	ピノキオナースリースクール	松崎・竹内	出前講座
8月20日	富山市音川保育所	岡・竹内	出前講座
8月21日	富山市しんでん保育園	竹内・池松	出前講座
9月4日	大山消防署	赤座	講師

9月4日	砺波市庄東小学校	間宮・竹内	講師
9月16日	富山市山田保育所	竹内・松崎	出前講座
9月19日	青少年のための科学の祭典	富永・竹内	出前講座
9月20日	青少年のための科学の祭典	富永・竹内	出前講座
10月1日	富山市神保保育園	竹内・池松	出前講座
10月8日	富山市宮川保育所	岡・池松	出前講座
10月12日	富山市神保保育園	竹内	出前講座
10月15日	富山市みかど保育園	岡・池松	出前講座
10月20日	キャリアデザインセミナー講演会	赤座	講師
10月26日	射水市千成保育園	富永・竹内	出前講座
10月30日	射水市あいあい保育園	岡・池松	出前講座
11月5日	富山市音川保育所	松崎・竹内	出前授業
11月14日	入善町有害鳥獣対策講演会	赤座	講師
11月30日	富山市池多小学校創校記念講演	岡	講師
R3 1月25日	富山市山田小中学校	赤座	講師
2月24日	魚津市中山間地域連絡協議会	間宮	講師
2月25日	福井県鳥獣害対策人材育成カレッジ	赤座	講師
3月27日	黒部峡谷ナチュラリスト研究会講演	富永	講師

6 実習生の受け入れ

例年、社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業で、地元の中学生の受け入れを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中学校でこの事業を中止した。

また、同様の理由でインターンシップの学生の受け入れもなかった。

7 鳥獣保護センターにおける傷病鳥獣の受け入れ

昭和59年の鳥獣保護センター開設以来、県と連携して、搬入された野生鳥獣に関して適正な治療を施し、鳥獣の種類ごとに区画された飼育室でリハビリを行った後、放鳥・放獣を行っている。

今年度の救護実績は次のとおりで、鳥インフルエンザの発生がなかったため、年間を通して受け入れを行った。

また、パタゴニア環境助成金を活用して、傷病鳥獣として持ち込まれ、種の保存法により国内希少野生動植物種に指定されている「ハヤブサ」の野生復帰のための訓練を行った。

(個体数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
鳥類	13	46	26	22	12	14	16	0	0	0	0	0	149
獣類	0	3	0	0	1	2	2	1	2	0	0	2	13
卵	0	26	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	41
計	13	75	34	29	13	16	18	1	2	0	0	2	203

8 自然に関する相談件数

年間を通して、電話等で自然に関する様々な相談を受けており、適切に対応している。

特に、今年度は傷病鳥獣についての相談が増加したが、相談の中で「ヒナを拾わないで」キャンペーンに基づき、ヒナの救護をしないように積極的に指導したことが、相談件数が増えた割には、搬入鳥類が減少したことにつながったと思われる。

自然博物館

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
傷病鳥獣	2			5	3	1	2	3	6	6			28
哺乳類	2		2	1	2	1	7	1	1	1	1	1	20
鳥類	2	10	12	4	2	5	1	3	6	14	5	11	75
その他脊椎動物	3	3	1	1	1				2			4	15
無脊椎動物	3		2	11	4	3	4	2				5	34
植物			1	1			1		2	1			6
菌類				2		5	24	1	3				35
その他				2	1	1	1						5
計	12	13	18	27	13	16	40	10	20	22	6	21	218

鳥獣保護センター

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
鳥類	23	102	88	81	42	30	24	24	29	34	7	10	494
哺乳類	9	2	2	9	5	2	3	3	7	0	2	1	45
その他	2	3	7	4	5	1	5	3	2	1	3	5	41
計	34	107	97	94	52	33	32	30	38	35	12	16	580

Ⅲ 県からの委託業務

1 野生鳥獣対策業務

野生鳥獣の管理に関する次の事業を実施するため、県自然保護課及び自然博物館ねいの里に野生鳥獣対策推進員と野生鳥獣共生管理員を配置した。

それぞれ実施した業務は次のとおり。

□ 野生鳥獣対策推進員

- (1) 野生鳥獣保護管理の企画・調査・研究に関する業務
- (2) 指定管理鳥獣（イノシシ、ニホンジカ）の捕獲や捕獲技術者の養成
- (2) 野生鳥獣と人との共生に関わる専門的助言・指導
- (3) 野生鳥獣の各種モニタリング調査の実施
- (4) その他、事業に関連する必要な業務

□ 野生鳥獣共生管理員

- (1) 県民に対する生物多様性保全に関する普及啓発活動及び現地調査
- (2) 動物の生息状況の確認のための自動撮影カメラの設置など、鳥獣保護区の鳥獣保護管理計画の策定に伴う普及啓発活動
- (3) その他、事業に関連する必要な業務

2 富山県ニホンザル管理計画におけるモニタリング調査業務

農業に被害を及ぼしているニホンザルの群れの分布、行動圏域を把握するためのモニタリング調査の実施、報告書の作成（行動域調査、個体群調査、群れ構成調査等）。

3 生物多様性保全推進アドバイザー事業

生物多様性保全に関する専門的な知識と豊富な経験を有する人材を、生物多様性保全アドバイザーとして自然博物館ねいの里に配置し、生物多様性の普及に関する次の業務を行った。

- (1) ねいの里におけるレッドリスト掲載種の普及啓発
- (2) 鳥獣救護に関する適切な助言・指導
- (3) ジュニアナチュラリスト等への環境教育活動における指導
- (4) その他、生物多様性の保全を効果的に推進するための助言・指導

4 自然博物館「いこいの村富山移管施設」維持管理整備事業

「いこいの村富山」から移管を受けた水辺の生態園やねいの里専用駐車場などについて、①清掃業務、②草刈り等業務、③除雪業務等を行なった。

今年度は、去年の暖冬から一変して豪雪になったため、除雪回数が大幅に増加した。

5 富山県指定管理鳥獣捕獲等業務

県内に生息している指定管理鳥獣（イノシシ、ニホンジカ）の効率・効果的な捕獲を実施するためのモデル事業を県内2市4地域（富山市、小矢部市）で実施し、捕獲効果等を検証するとともに、経験の浅い狩猟者（中級18名）に対するOJT（実地研修）捕獲を26回実施した。

修了者には県から受講証明書が交付され、再来年度からの捕獲専門チームで活躍していただけるようにサポートした。

その他、冬期間に赤外線搭載のドローンを用いた手法による調査捕獲も実施した。

また、併せて指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定のための基礎資料を整理した。

IV ねいの里自然塾の会の活動

1 組織

ねいの里では、平成18年度より里山での生物多様性保全を目指した活動を行うため、『生き物ふれあい自然塾』を開校した。里山再生や水辺のビオトープづくり、貴重動植

物の保護増殖事業などに実績を上げてきた。

現在は、自然塾で活動した中心メンバーが独自の活動を行うため、『ねいの里自然塾の会』が組織されている。

2 活動内容（自然塾の会独自事業のみ）

月 日	定例会行事内容	参加人数（人）
11月15日（日）	蔓植物観察と輪っか作り	7
3月20日（祝）	総会	10

V 広報活動

1 ホームページでの情報発信

ホームページを開設し、一般県民に対しねいの里の自然や行事について、わかりやすく情報発信を行っている。

また、リアルタイムに情報提供を行うため、自然情報ブログを導入している。

Webアドレス：<http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

自然情報ブログアドレス：<http://neinosato.blog.fc2.com/>

2 新聞、テレビ、ラジオ等への協力・出演

年	月	日	氏名	内容	依頼者
2	4	2	間宮寿頼	日本鳥類保護連盟富山県支部写真展	上婦負ケーブルテレビ
		5	松崎 勇	日本鳥類保護連盟富山県支部写真展	読売新聞
		8	松崎 勇	カタクリとギフチョウ	富山新聞
		9	富永館長	日本鳥類保護連盟富山県支部写真展	富山新聞
		27	間宮寿頼	バードウィークについて	KNB
	5	24	富永館長	ハッチョウトンボ	富山新聞
		25	富永館長	ハッチョウトンボ、モリアオガエル	北日本新聞
		28	間宮寿頼	イノシシ、シカ、ツキノワグマ	読売新聞
		28	松崎 勇	ハッチョウトンボ	BBT
	6	18	松崎 勇	モリアオガエル	読売新聞
		19	富永館長	ヘイケボタル観賞会	上婦負ケーブルテレビ、チューリップテレビ
		24	富永館長	カブトクワガタ展	上婦負ケーブルテレビ
	7	29	赤座久明	クマ被害について	チューリップテレビ
		6	間宮寿頼	人物紹介(仕事ひと)	読売新聞
	8	12	富永・見浦	アオサギの放鳥(釣り糸対策)	KNB
		27	赤座久明	今後のクマ対策(有峰)	BBT
	9	16	富永館長	ミズアオイ	富山新聞
		19	富永館長	チョウの鱗粉転写	北日本新聞
	10	4	富永館長	キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ	富山新聞、上婦負ケーブルテレビ

		5	富永館長	キノコ展	富山新聞	
		8	見浦沙耶子	釣り糸、釣り針と野鳥被害	朝日新聞	
		16	見浦沙耶子	釣り糸、釣り針と野鳥被害	日本テレビ・NEWSEVERY	
	11		2	赤座久明	ツキノワグマ	富山新聞
			5	竹内健心	竹内氏人物紹介	富山新聞
			11	赤座久明	クマに出会った場合の対処法	チューリップテレビ
			19	赤座久明	クマ出没について	富山新聞
3	1	4	富永館長	「春の七草」頒布会	北日本新聞・富山新聞	
		5	富永館長	〃	上婦負ケーブルテレビ・BBT・とやまCITYFM	
		22	赤座久明	フン・糞・FUN展	上婦負ケーブルテレビ	
	2	10	1	見浦沙耶子	フン・糞・FUN展	北日本新聞
			赤座久明	ニホンザルの被害について	BBT	
		11	富永館長	ヤマアカガエルの産卵	富山新聞	
			富永・間宮・赤座	動物の体を調べジビエ料理を楽しむ	北日本新聞・富山新聞・読売新聞・上婦負ケーブルテレビ	
			岡 圭一	ヤマアカガエルの産卵	KNB	
		21	竹内健心	園内の春見つけ	上婦負ケーブルテレビ	
		28	松崎 勇	園内の春のようす(放映3/4)	NHK	
	3	4	間宮寿頼	こんにちは富山県です(クマ関連)	KNB	